

平成17年度公立高等学校
みやぎ学力状況調査
分析結果の概要

1. 調査の概要等

- (1) 生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てるために実施。
- (2) 公立（県立・仙台市立・石巻市立）高等学校の95校184学科の1年生、約16,300名を対象に、平成17年10月24日（月）から10月28日（金）の間で各学校の実情に応じて実施。

①学力状況調査

〔調査対象教科〕

国語、数学、英語の3教科

（定時制課程は教科数を減じて実施できる）

〔調査対象人数〕

国語（16,307名）

数学（16,125名）

英語（16,235名）

②質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施。

〔調査対象人数〕

アンケート調査（16,308名）

2. ペーパーテスト結果の概要

①全体の結果分析

作問に当たっては、学習指導要領の目標・内容に照らし、平均正答率を60%と設定して作成した。結果は、正答率の単純平均で、国語63.8%（昨年度50.2%）、数学55.6%（昨年度62.2%）、英語57.8%（昨年度50.5%）であった。

②教科別の分析状況

《国語》

- 正答率7割を超えた設問が昨年度4問だったのに対して、今年度は11問あり、特に同じ内容の問題を出題したところは正答率が向上している。
- 漢字の読み書き、語句の基本的知識や用法を問う設問については概ね良好であったが、慣用句の用法を問う設問の正答率が低かった。
- 評論は設問箇所の前後の文章から導き出せる設問の正答率は高かったが、本文全体の展開をとらえて答える設問については低く、4割を切った。
- 小説における心情を問う設問については概ね良好と考えられるが、人物描写の根拠を問う設問と本文全体から人物像を問う設問の理解がやや劣る。
- 昨年度同様古文の正答率は高くない。特に動詞の活用や人物像を本文全体から読み取る設問の正答率が低かった。

《数学》

- 昨年度と同じ又は同様の設問のうち、ほとんどの設問で昨年度の正答率を下回っている。
- 一次不等式の解法や二次関数の平方完成の設問の正答率は、昨年度を大きく下回っている。
- 基本的な計算の力は比較的身に付いているものの、やや大きな数値や負の数が増えると処理が不正確になる傾向がある。
- 用語や式の意味理解が不十分のため、文章化された設問ではその意味が読み解けず、無答率が高くなる。

《英語》

- 「聞くこと」については、正答率が7割を超えており、昨年（5割弱）より上昇した。
- 「読むこと」については、手紙文など基礎的な文章の概要や要点を把握することはできるが、物語文において場面や状況を把握する力は、昨年と比較して改善の傾向が見えるものの、不十分である。
- 「書くこと」については、与えられた単語を用いて英文を構成する力は概ね身に付いており、昨年と同様の結果である。
- 会話で用いられる表現や語句の問題の正答率が高いが、昨年同様、文法や語法の定着は不十分である。
- 正答率が6割を超えた設問が40問中16問であることから、英語Iにおける基礎的・基本的事項の定着は満足できるところまでは達していない。

3. アンケート調査の結果

- ①「平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか」

	全く、またはほとんどしない	30分より少ない	30分～	1時間～	2時間～	3時間～	4時間～	5時間以上
H17 高1	36.7%	12.6%	15.7%	21.0%	10.4%	2.5%	0.5%	0.3%
H16 高1	38.3%	12.3%	15.4%	20.4%	10.0%	2.3%	0.6%	0.5%
全国 高3	40.8%	8.0%	7.7%	10.1%	11.0%	21.8%		

（全国高3のデータは平成15年度高等学校教育課程実施状況調査結果による）

平成15年度の調査結果

- 「平日（テスト期間中などを除く通常の月曜日～金曜日）に、家庭学習（塾・予備校は除く）をどの程度するか」

	ほとんどしない	30分程度	1時間程度	1時間半程度	2時間程度	2時間半程度	3時間程度	3時間半程度	4時間程度	4時間半以上
H15 高1	51.6%	15.5%	15.9%	7.1%	6.1%	1.7%	1.2%	0.3%	0.2%	0.2%

- ②「現在最も強く希望している進路は」

区分	大 学	短期大学	専門学校	就 職	その他	未 定
H17 高1	41.9%	4.0%	18.3%	19.8%	2.1%	13.1%
H16 高1	40.4%	3.9%	19.1%	19.6%	1.9%	14.8%
H15 高1	39.7%	4.0%	19.9%	19.2%	2.3%	14.9%
全国 高3	50.7%	7.3%	20.1%	18.4%	3.3%	0.5%

- ③「どんなときに家庭学習をするか」

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日 (H16は主に週末)	宿題・課題や 考査前	宿題・課題がある とき	考査前	塾・予備校がある時や家庭教師がくる時	気が向いたとき	ほとんどしない	その他
H17 高1	12.8%	4.3%	6.6%	34.8%	4.4%	8.1%	1.8%	13.7%	12.0%	1.0%
H16 高1	11.6%	4.5%	6.7%	33.9%	3.9%	9.3%	1.9%	14.6%	12.4%	1.1%
H15 高1	11.6%	4.5%	6.2%	33.3%	3.7%	10.3%	1.4%	14.9%	12.8%	1.1%

④「平日に、家庭で最も時間をかけて行っていること」

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲーム	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H17 高1	5.6%	28.8%	4.5%	16.9%	3.8%	22.3%	3.5%	1.3%	11.4%
H16 高1	4.9%	31.4%	5.3%	14.4%	4.0%	21.5%	3.6%	1.3%	13.1%
H15 高1	4.8%	(34.1%)*		15.6%	—	25.8%	4.0%	1.5%	13.9%

*表中の「H15」の()内の数値は内容を変更した質問についての参考数値である。

⑤「家庭学習をする上で悩んでいること」

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H17 高1	15.3%	26.0%	13.9%	20.9%	5.2%	3.5%	14.2%
H16 高1	14.1%	26.3%	14.0%	21.0%	5.6%	3.8%	15.0%
H15 高1	13.3%	27.7%	14.2%	21.4%	5.2%	3.6%	14.5%

⑥「授業がどのくらい理解できるか」 *平成16年度新設質問項目

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H17 高1	6.0%	31.2%	44.5%	13.3%	3.3%
H16 高1	6.1%	32.8%	44.6%	13.3%	3.1%
全国 高3	3.7%	34.3%	40.5%	15.5%	4.1%

⑦「受けたい授業はどんな授業か」

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心がある授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
H17 高1	35.1%	6.1%	39.8%	12.5%	5.9%
H16 高1	35.7%	6.5%	38.1%	12.7%	6.6%
H15 高1	38.6%	5.8%	44.4%	(2.8%)*	8.2%

*昨年度の質問は「受験のための問題演習中心の授業」である。

(100%に満たないのは、「無回答・その他」を記載していないためである。)

4. 学力向上に向けた今後の取組

～みやぎ学力状況調査の結果を受けて～

【各学校】

各学校では、授業の質の向上と家庭学習の充実で「確かな学力」の育成を目指します。

- 「理解できる授業と理解できない授業が半々」、「理解できない授業の方が多い」、「ほとんどの授業が理解できない」と回答した生徒を合わせると61%に上り、分かる授業に向けた授業改善への取り組みについて工夫する。
- 受けたい授業は、「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」や「興味や関心もてるような授業」と答える生徒が多いことから、指導内容や指導方法を工夫する。
- 「ほぼ毎日勉強する」と答える生徒が極めて少ないことから、毎日少しずつでも机に向かうように意識啓発に努める。
- 勉強するのは「宿題・課題がある時や考査前」と答える生徒が多いことから、家庭学習の習慣付けのため、学習指導計画の中に適度な量と質の宿題・課題を位置付けるなどの工夫をする。
- 家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから、学校と家庭が連携して家庭学習を推進する。



【教育委員会】

宮城県教育委員会では、高校生の学力向上に向けて各種事業の成果の普及を図ります。

- 各種の教員研修事業の充実
- 学校評価・授業評価の実施、シラバス作成の推進
- 学校英語教育充実推進事業
- 大学との連携による意識啓発
- 教育コンテンツの開発
- みやぎ学力状況調査の活用
- 学力向上ステップアップ事業の実施
- みやぎ高校模擬試験の実施
- 校長の自主性を生かした学校づくりの推進
- 進学指導充実支援事業の実施
- スーパーサイエンスハイスクール事業 【文部科学省】
- スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール事業 【文部科学省】
- サイエンスパートナーシッププロジェクト事業 【JST】 等